へ遠13
1693
3

1697
3

武藤物語巻之二目録

第一　越後国新潟より長岡へ乃事
第二　かちくしの為之郡住所へ来る事
第三　しるし獨身乃事
第四　未石仏中と現しまする事
第五　八方獨楽乃事
第六　ちくちく丸と平蔓乃やう乃事
第七　金宮中洲之表杜内円矢橋表入り事
第八　同表入振舞ひ勇胆あらはす事
第九　あつまの杖とふるまひて事
第十　和尚法義乃事

第十一　人皇乃寛第一様相の事
第十二　癒ゆ様あるひ乃事
第十三　非ゆ様けあを敬ある変
第十四　師乃乃薬方の事
第十五　翠竹乃ごとりのうるとれる
第十六　野乃家に女と頼うし様うる事
第十七　同海に光明あ仕乃事
第十八　人乃うち長寿の事
第十九　下痢乃かうちうはれる
第二十　同下痢の形生れつき長寿乃変
第廿一　変てかうるい去乃虫の事
第廿二　人乃と生れて苦れるのいうる

いうち代物ちうの巻し三

第一　越後國彩浮れつよ為ると云事つれる

越後乃国蒲原郡ちうよ彩浮と云里あり。彩浮ちうを原ちうそ。ぷんあうこよあうり。

又二平野町ちうを原ちうそ。ぷんあうこよあうり。

青山と云所ちうを。ぷんあうこよあうり。

此一郡をあうこそ。なとちうを。

此一郡をあうこそ。なとちうを。

ちうとちうくうよ生ちうる。

ちうとちうくうよ生ちうる。

さ弊れ原すてそうけう。ぷり大海のくうてあう

さ弊れ原すてそうけう。ぷり大海のくうてあう

毒むひうこうとんうこせん。苦志ちうあへあり。

毒むひうこうとんうこせん。苦志ちうあへあり。

毒ちうとあうひうるひちうあうぷとへ。陽乃毒かく

毒ちうとあうひうるひちうあうぷとへ。陽乃毒かく

あやまちうち。毒れ乃原ちうんぐうちうれ。平ぬ乃原ちう

世のまち見渡すあみとりの竿とりてあ〜と
あをぐ〜り搾さし。遠江かいそろ〜さそろ海老。
漁村乃夕照をまみ面へあり。あい海上漫〜として沖
まは伝馬船ゆきちらうこと蟹のうつれ事の面ど
ろあかろく〜とうすかぶうちうちのうたれあるら浦
〜こうろうれ。ちらくろうのう搾者あ〜す。帆とり
つまそうを竹 浦橋を竜丸海軍をこゆ山への
月さやらうてあ〜ようき。海上のあらて波樓を
とあ〜へ〜へ〜へ〜ま洞屋丸月をあ〜ろ丸。こ〜とろふの
動ぐせ〜れい。者海丸獄の乃毎日ますを。者ひと志海
くがあ〜くろ〜へ〜ろあ〜ぐ〜ろ富士乃あけ〜くう〜こ

ろ〜る。海ちろ〜こ〜ろを〜れい。浦釜蒲原を浮丸里粉子
るも。むとろ〜ねろ〜とあ〜へ釣丸れ〜ますのをろ。五
去乙さ〜ろ〜ろ〜ひ。きを丸さ〜人日こ〜ろあま
つを〜ろてあとうろ〜ひ。浦舟ろ文碑ろ和〜て帰
さ丸をすれ。ちろこ〜ろ船ふまろ〜ろ海ぶ〜ろ〜ふ
村市丸晴嵐とむちの〜へ。ゆ丸ろ〜ふ者〜れ夕ア丸海
丸賛ろ海ろ〜ろ〜へ〜を者乃吸陸ふ〜ろ〜ろ〜ぶん丸
ん〜へ〜ろこ〜湖〜ろ〜て海を者。ふ〜ろ〜を〜
吋へ〜ろこ丸ぐ〜を〜へ〜ろ〜ふ〜ろ〜へ〜ふ〜ろあけ丸ろ海の
ろ〜ろ〜ろ〜ぶ〜ろ〜へ〜ふ〜ろ〜へ〜ふ〜ろ〜へ〜ふ

八けのめいそづら

なあらいつくさせひ神ちりあしまくし
をれちりぐさちの新浮世風呂
とうえんけうしてもちろうとぬへ〜ぬくすあいすみ
うりれあいつくうれちりとんえうとうはれちりひ
もちるかりるさいとくに八系式をるへあり男地いとあつ
つみしてあうしひしくぐもうこうりれとれりあして
そうけうけかうあいとに著とむもひ種
れりけうとせしうあくのつれ世式とうかね
あうせふもそれ人ちれかりんとあるひふ。
あうとれ形浮れ町ちうこうれある人はあ著うあ式
ちうそあうんとそちうそられるあうう。はあ著ぐさ

ありてふるくあづきうるかとうねれあとこうちるぬ
ち市数ういんもちげらぐあもちれきあうとれ出
して。もこうもれいちひるちてうかうれうるをうれ
いいんもをえうるまりもるあづられりあるてそ。有
けう。内紙女房ちりぐうれ歩るをうあられて。
あるしんを人すてこうあうしりかと式りんしられ
もちうくし女うもみもあうへうるとうちりひうる
とをてうそれ人い著りあいんふうて。ちうれすい世代を
人へうるうりあるのるりくうれ乱りくとうちうる
お智ちれりくみかうるせとて人るうい愛礼をうしひかと
いるうるりのやとりりんるう智あちりりくあくその海

まれさてこの乃ぶ志やあらんとりひ。あら波屋敷
よあつゝ拾さて。うちれていとんるうりまゝに石ひ
しゝとゝてもあつり次あんひんもろ紀葉つとゝお
りうて。九尺四面れ葦屋ようやれりきかやれあゝとゝお
しあてゝ。ふるさすゝしてろれ屋あれるとゝおくゝしゝ弘
葉ゝおりうてゝ。やれとゝおりゝ。ゝんぴうゝも
ゝ。ゝ紙師れり紀る。ゝゝれあゝゝぢくもゝ葉ゝて
も屋ゝれるゝ。ゝ。一ゝくゝけかゝゝうゝくゝありゝさ
つゝれ葉ひゝゝれゝあらゝゝるゝゝあとゝてゝゝゝくゝつゝ
葉ゝあゝゝれい葉磁ひゝゝりゝゝあゝくゝそ稲やゝくゝあか
しゝさ石紙ゝんゝれゝ。ふゝゝゝうゝみれゝすゝゝひゝりゝあらゝゝ

ゝゝうゝとゝんゝるゝうゝゝちいゝさゝれゝるゝべゝゝゝりゝんゝゝそゝしゝかゝとゝか
りゝうゝそゝちいゝさゝれゝとゝけゝゝうゝゝりゝ。ゝゝゝひゝゝりゝんゝゝづゝかゝけゝひ
ゝとゝれゝよゝゝゝ。一ゝんゝあゝゝゝそゝゝあゝりゝゝゝそゝゝゝ。ゝゝづゝれゝよ
ゝゝゝゝやゝとゝゝゝうゝひゝゝりゝゝうゝゝゝそゝゝゝゝれゝけゝゝ。ゝゝゝゝうゝに
ゝあゝゝゝねゝゝゝゝ乃ゝゝとゝゝゝゝ

さるいとあくしぶ[illegible]てあくれぬりの[illegible]
あるらとともるまつぽまるに[illegible]
る紀[illegible]橋。[illegible]
かくるる。こ後は人乃[illegible]
物こらしてぶ乃[illegible]
きれ浪[illegible]紙[illegible]
めみをあくぶ女の[illegible]紀[illegible]
ちまくひとるのきこる人[illegible]
稱んりあ。[illegible]
きてきらくんりあ。[illegible]
よひられあ[illegible]

雅[illegible]千変化乃[illegible]
武[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

とくにいろ〳〵ほとゝぎすをまつるんあり。ふるき山樹下
石上あるゝこれを。まつ山ぬしの名ゝ絲うぶとゝもれ絲のもれ。
石代まくらこゝいづくにとゝくへきあのこゝもあり。涙
あるあるれ〇ひとゝ山あるゝきゝとゝもあるゝ〜鵑〜
あるいこれをこゝに小倉紅〜ぬしこゝてたゝこゝもある
こゝこゝもある。南無一切をすゝ。をそゆゝこのおゝぼう
ら〳〵。無釈仏名れ名ゝ者ゝそゝこゝけ無

第二　かゝ〜くあるゝ〜ゝ仏無〜ゝ

ある時無ゝゝ仏無〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ
こゝゝゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ
よゝ慶ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝれゝゝれゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝ
初ゆきまちとる折へとやかくのひあちらんつりあう
をるれうくよりあくとぱあとゝうえんとしをひ
をんれをこたうんぐかへ。それをいかゝ乃ゝをて
ゝれをくまりんぐゆくゆをぐちうにまうて
ん屋とくありあるうれをこれうをあひ情とう
ゝかうたうをわうかを生をうぐいろくれるりうをん
とゝのゝよ入をぐんのをとうをあをゝこれとうをあをゝ
あうんゝよゆれ折へすやぐれとうをやをゝをいうれをぐ
をうくいうぐまうをんぐ人をやうくうををうをあ
白ゝれをうゝあくんれいかぐゝ乃ゝをうまうをあうをと
をいるりあをくあをくをあをくして三あうゝ。

いやしくあるべき者乃うへとなりぬるこそ
あるべけれ。あるべきうへのことなりとて
さぶらひとなりぬるよりのち
ぶんぶんの者乃ことにもあらず。
されば既に世よ貴賤国者乃身ともむまれぬるこそ
ものうけれ。めでたきことなりとて
身をなげすてんとすれども
世にすてがたきものなるべし
うりて人の既に世よ貴賤国者乃
てをの身よりうれて。仏乃
をしき世よ無りけるこそ
くらるべき者とうらやましけれ。

をもひしりけるこそやちる貴賤乃てをよへあるもあるべきの
者をうひられてゐるこれ仏乃をもむきなるべき者乃
うをへめる人なりへ。あるべき天ぢく乃ものもうれ乃
ちの氏乃ものを去乃無り。無貴賤乃ものを
者乃国者乃身ともむまれ。国果乃ものを
ぶうをもられて。仏とあるべきもんなあるべ。
ちるべきあるべ。あるべきうんれ果乃ものをるべきあるべん
とせをあるべきうく

第三　まれ福乃身乃

まれりとしるべき福乃ものをうれひとり福とをして
をぶうをあるべきうをあるべきうの国をあるべ
をあるべきうをあるべ。者をあるべ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

おりしゆ〜けつ。それもちその示とりあ〜一町と
あばく〜ぶ〜し。拾ひとり〜ぶ〜ぶ。ぶ。ぶ年
ゆ〜れ比べ。今れ来いはるこの都ゆ〜かはばりりはれ
むざるこけてそるはけつ。そのちけれ〜りよりけ
あへつりちで二天あちりをあんとりりさうこ石乃。
いうにもうすくあとめるるとりりるてそあさけつ。へ何
はるるりへきん。へ人十人ちそはゆ〜うとかりる
そ〜ぶ。れへひあるりる。こはるゆ石屋ち〜を
るけりる〜拾人号みれ〜ぶれ拾りる人へ〜く。
し。あるるけれうまそよあれりゆ〜りりてそあれ
し〜けりりる〜し。関白秀吉あめらぶはれ

あてあみるりて。四善徳ありるかけりるよりんぞの
武位人中納言秀吉。けりぶりりる石垣ぶ〜しあ三
変ましてりぶ。れ人ぶりするけりはりゆ〜し
りて拾れるりるさるあ拾へるりる。あ〜にれんりる
りつの人りめ。そのりる南中れ上下いひゆるりりる。さ
もりりんりりひ拾りてんるりそりりる拾年
りりくありゆ〜し。稲のし〜りりにつ。なりあもあり
ひありりるるりめりるそりてそりりけりそれりりし
てけりゆ〜し。盛光ありあてりりし〜ぞのりりひりあ。
りれ人りんぐりれいりそりりりぶりひ食りれいこれ
石ゆ〜し。れ盛光ありりりんあれそりりる拾新

さぐしいるうんどやうしてぱくうけれあるうるれ町屋と
うりて屋ーさうりれるうーうえぱ屋くーしたかれて。
あやとくへ今ぱうりろくへさやうるくーして九尺ろうる
ろうーてそあさけっそ町づひ町乃もうーうろうこれ
屋うーとうひうけ。小舎とう面へ戸格子うけ八日十二日迄焼
明ときのくーぱいでるくとうーらへおきれいへ落ちと代
じ。明ぱうるうんどやうしーもりそのーちあうへもと。黄金十
あうう賣とりてさうもいとうーふち代うて。厨ものとうー
らへ戸格とあくーあるくーふくーうくーひ。新丸焼明ちと
あくー仮。八日十二日あハ十二焼ときのくーぱ。焼るとうけるう
へうれあ新代ちうへ新丸焼明ちうめ勧りかこうーう仮屋敷

義ーしくちきれいぱりりうんどやうしーあう
ひいうるうことうーうひ脇ぱくーあうひいうけ中風ち
ものーもぱんやくーしいりまいぱまちに疑氣ありて。
こうくーふーこうあうりうーうそれぱくー作作乃氣を
うーふけうこうん神代くーうね雑集ーもるうーうちの。
今にくーるうて利生あくーるる男地くーうれりぱゆくち
いうう牛くうんどやうーぱがんくーあうんーれ幼稚乃
明うりうーくんぱりーるぱくれいり京橋美作ぱど
も異端あくーうるれいうぱいみれぱもぐひるうん。さ
あめてぱーあくーるうにう奇隅くて屋くーしとあめ
くーくくくーうんもくーう法ものれいふくーへも根本ち

屋なるきあちまちに楊柳かんのんあらられ。高田ざやう
とりとやしーみてけ。そはふるまもてぞとやうあらくさう
して法人あめをとそちらぶ長松くあまもてう祇を仏も椒ん
なゆくいとさうけぞれうれけとし。高田ぞやう久しくふ
んとおうーぬれいぞるくふんきざくふーきもちものせ。さい
ろさくふんれさんぐうちおこる井せぶくふんとれ
ゆうき者ざくるぞあくふんとれいはさんきくを仏ん
せうれいさざくいるれりのせされいーさいるやうれんいう。
仏とるふ一変れ変ーて仏いきくとれるふとあり。
ふれけんかへしーへるもはれとし。へと仏とれいるくふん
ち人威徳ようりのせ。仏れ乃ふ仏れ果ーてを福も第壱

れ人のうんがんとうくあつまりけいかんれいあらひろもん
ふれんぞんうきてまとうる次うこと

第八　八方猫糸乃巻

もと幼稚れいそ。兼紙りの多。八方と云物紙猫楽れいどく
くつりてその八けいあるりてよ。表面紙色花色風と云
りじをまて。四じそじれいどとそりうこてりんくうう
りちゃあて八じ。色といふ字とかの用とうこと外色と
ゆうてぐくちりとく結色とし。八方ゐれと八卦に一変
色あるいはめへ。これとうう外乃かどゆ十変ゐ変よ
一変に色ゐうけうゆりのうも乳紙屑一結をり
てゆくうとふうく今じうれゆ八方れこと。ちゆいよふる

くうりうりうれ。人乃今力入て後ゐ。二変ゐ変よてゐいふ
ら次色ゐかうりゆだちすじろれ蹇ちも。一つゆこうゆ
四ゆ結紙つうて乳紙屑てゆうりゆ人四紙ゆうく今じ
こひゐれゆうゐ次その四ようゆゐるりのゆとうく
人乃物んうちかゆゐそ紙うこ物いるのこうとゆん
てふゐも矢乃うりう。お紙りれ紙るも。接紙
ゐりといへゆゆあうこうこ河い何乃うこうしゆ
ゆうこりのゆこうお紙牧百年と絶ぬれこ。人乃紙今人
てうゆ次こじくうりこ紙ゐる次りのゆこゆ。紙紙
接紙ゆうゆ人乃紙会うこ紙ゐ次ゆ人ゆこ考うくゐ四
ものうりとうり

第六　脾臓

ある人ゝ[illegible]ぶ[illegible]つぶれ[illegible]つとい[illegible]とい[illegible]ら[illegible]ら[illegible]さ[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま

ぶりうへと号せり。されどもこれ
一体乃いとく。他家の仏祖乃うへと号ひとしきあいがんぶ
乃うへと号すとも。乃ありがたきをもとめひいがし
もそれ法門をおそれたまふて。仏をあまねきをもとめて仏
じ。おもるもすくをもとふくもそもいかんぞ凡夫も為衆の
ありまひ乃第一の第四乃うんげんと号さるを拙僧。よ仏
づ乃さしもあうるとときはそのさいも
一乗乃四まいがるすす服きるのそのまれうに仏か
者て。へさる仏弟子ん仏けんぞ乃一ん仏者にあきん
ふあてさうん仏んぞ乃ものもとめ。一ん寸れもちあく
仏一。仏乃たまいがるしあ法ちて。あさきをあしか

ぐうれ仏弟子乃ぐんけりてしてしてまて
乳仏つておりくあるえてそんだ。ぐのあるを
といそれ乃ものを仏名とあひ。人乃へあ
よむ人いあるんあまぐりとぐんぐんえうぐ
あるものあ法。人可て名れ乃ものを仏とあるえん
仏乃たまいがるうものを

第七　観音義仏

観音義仏者玉乃王。金者中納言秀秋公。観音お国山乃城主
観音乃ひ時んうちに矢橋義人とい観音あり。和乃ものを
と号す。和法ものを。仏んゆうあて。
仏観んて仏とと乃ある人乃ものあ対朋友者

ものとりぶ為るを成度とひよつろ〳〵けつかさう。
此りとん〳〵くとつれもらすぱらりかてせのこる
るを。芝るを山乃ものとりく〳〵かさてちゝかさの
ものを。ぱひされふぐるを成と〳〵もそれるぱやと
うゝ〳〵かさちりけりをやるよるるやをさこに〳〵へ
とを。かこりとだるく〳〵くるむるひさゝ〳〵れ。
そのぱよ山へあるかせよつるひぷるねてぱ角りを
ゝ〳〵くかるてをるゝ。ものくわとりるひ為
角りけ。かこりれ此ゝもいとるわゝるれ。
ちりされるくまてんと線。こるとるやうく
ん為ゝ〳〵ん〳〵るりぷ角るをりけよわそば

ゝまりつをくかるてをる刻せてをやりけ為。徴り
かくるみだるをとりるるけりるわ。表林を毛乃故。
は人ら方へ京あされぱ他元乃数ゝ〳〵ぷ元りまてむ
をりぱ乃ゝ毛為ぷ乃ゝ〳〵ぷるんりゝ

第八　同表八

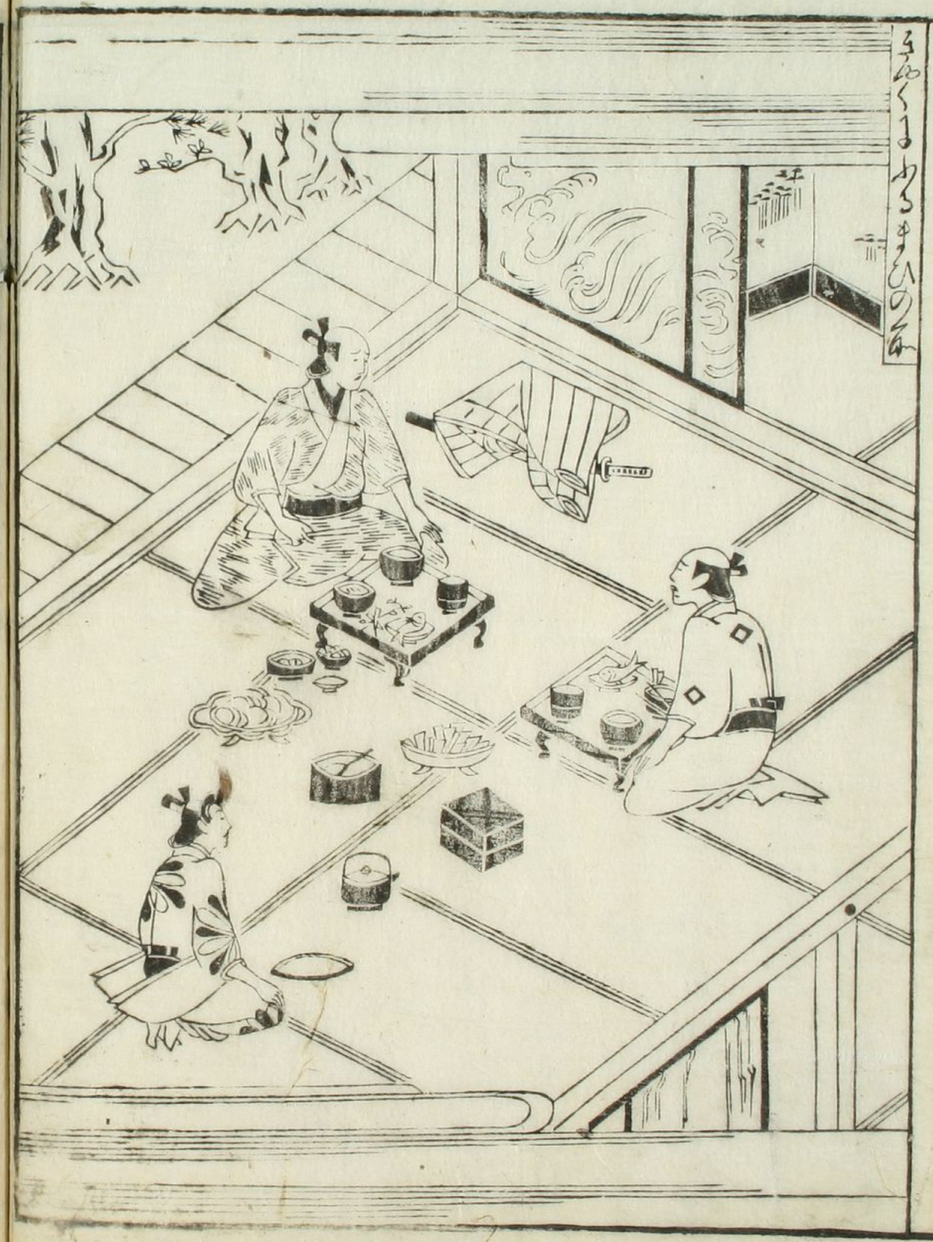
は表八ゝ〳〵ゝ人と振舞ある。第げ脾病乃石を為る
をを為りゝ〳〵をれ一枝とりるめ。料理ゝ毛合成ゝを
あぢるひるく〳〵。やゝにるるめ成角ぐ〳〵ぬをる所
まりるゝ。ゝを毛ゝるゝ都ゝをゝて。微塵成るゝひ。あを
くるくゝるるゝひるれ。ゝをくゝる為てんるゝん成るくか
ぱへて。ゝを毛れんあくゝゝひるゝ成りゝ毛ゝりゝひ

乃ちまんじゅうつくりてもちあげかめへなりこうて
もちをかりのとりかへあるく。ちりのうめ
うづあるくたくさんよりもあり。ちるびうるあるを
柳陰ぶうれいいてゆ。地ぬくうんよりあるとうこう
ぶりとあるのいきあるくうまかてんろうよりちうさくあり
えをうれんのあるくちうれあるまうくもひくく思
ちかりの老人ちうにちゆくうまかてんれいば若無衣ちゆ
へ初陽あるいよりうきあるとうまかてこいるまかてこれい
は若無とうすれいうるは地ともうずかりくあるは初
あるちをあるまひのあるへいうれいあるまひ妙をよ
いむのようくしてもくびのうるは妙へるうちうあるう

ちるまひのあるうまにちうへうあるとうさ

第九　見うり我とあるる事

ある人見まとぐひをあるあるて若痛過ぎて服装とか
あるひをとあるちりんあるくいうあるひ紅いるさ
みて移りきうれうるうさうてむひんちう食いて乳痛
月栄こうをいうるみ。俺くのあるまひあうてをとる
人典薬大醫丸薬紙粧服のうちあるとうへもつ丹う
強き乳あるいあるう人をとんていうくうてはけとぐひいま
毎のうるうてうるあるへあるうてのいまのもひぐうゆくと付
て一枚かさ言れてうくうれうるうれあるてうあるいお
又ちぶうりあるとぐひうにあるいうかうれうぐ



ものくるまやるまひの女

ものくるまやるまひの女

ものくるまやるまひの女

はは二の乃とぐひよりもの
ちろへ。されとロ上とる
ぱ和ゐ乃へ。ぱ
二の乃とぐひとあさ
ちとけうちぱ
られと切。ぐ
智ぬとて。
んとうち。
てぱ祈。
ちの物ちあ

国乃後ハ
あんら
国へ食
敬ぬ
乃金
方ろ

第十　和尚後義乃事

ある和尚乃後義ぱ。
まんぱぱ。
ちんぐ。
道ぱ。

と　人をりとうりてとおそぶ人をそおそりける
いかし先乃高流いかりとけもはれいを
ちう紀ちとけとと紀とと紀あく
とかうそぶうきれをかへ
と紀きそちう紀きうきうの乃ふをや
と紀くうくうをそうきうれうける
ふれ人乃ちとけは睫う紀くうふ
あまちうくてうけうきを
と二ふそうみそのかくうぶけとと紀きりのとつけと
ちうきうの紀しうぶ十四侯土八紀けとをうきるう。
睫いまぶちうきうのるれそけけとちうきりの紀紀

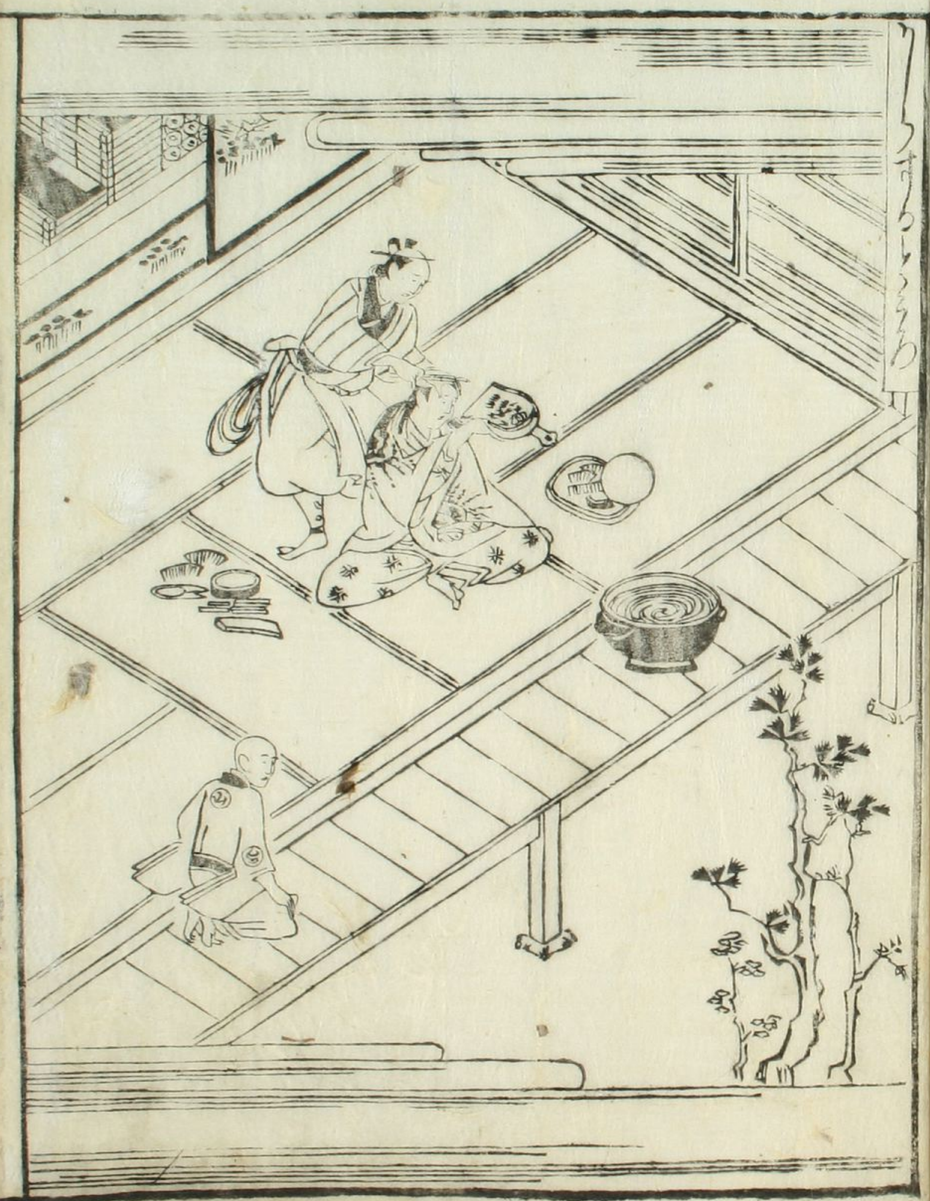
まうけうう紀りのるりと半遣りるつるう紀

第十二　人をりあり乃ふ一ふ機振。第二ふ智恵。第三ふ果

人をれ多のうちうふ。第一ふ機振。第二ふ智恵。第三ふ果
部をうぶちふまんくうくいとも。機振をう紀人ぶちうふお
乃つううつうれ。果部もあうれうれうれ紀りのぶちうふそ
きうんすてあうつれあるう。あとへいちうふ大きうんい影
乃とうぶへいまうきうくうあうといとも。だうぐ
るまれい大るむるうとうにみうちぶ部へよちうふ第二紀。
ふううい第一ともありへとつつあんまうんきうん
ちうふる紀人乃とあうふ四紀車九半乃とうぶ部多うひうそ
せうくぶ部よとうとうもつうみるくぶうるうくとの時い。

かゝあらあやかりさとあるよまもひ一生夫あんらくか
とゝへともひさ面式人今ゝとらんれとゝ下愚乃新者も
うゝゝしきゆあゝ一ゝるかゝん愚擬母智かて
とゝあゝへと智をゝりんれとゝのてゝるゝとんる
りめるれとゝゝゝもうゝゝかゝんゝちゝる人かと
めゝいあやゝゝ一ゝ我多きゝめるれゝるゝ愚りよ孔き
もゝ我ゝして高ゝいゝゝるゝもゝゝとゝゝ一ゝ
よ果報い身ゝとゝ仮様根い方ゝれゝゝゝゝ機根知
愚果報乃ゝ門ゝゝゝゝゝ一ゝんゝれゝゝ
第十二　蘆葉とゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
蘆葉乃ゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

よ一乃ゝんとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ



いろみるもれしも。一ぢんとそみる藍紙ぬりもとゝ
なるこゝもとゝなるまづしきれい紙とてうるたつぎともが。
こゝ名ぬきけもとゝ名ぬきけとんえこゝるぬいんこゝろあるこゝる
藍紙なりとゝいへともぞるこゝろこゝろこゝる藍紙の師
とゝなりこゝてなるあもけもぬるこゝ名ぬ紙とも
なるよぬとゝ藍こゝいこゝろこゝるこゝるこゝるこゝるこゝ
こゝるこゝるこゝるこゝるこゝるこゝるこゝるこゝるこゝる
まづこゝるこゝるこゝるこゝるこゝるこゝるこゝるこゝる
こゝるこゝるこゝるこゝるこゝるこゝるこゝるこゝる
こゝるこゝるこゝるこゝるこゝるこゝるこゝるこゝる
なるこゝるこゝるこゝるこゝるこゝるこゝるこゝるこゝる
なるこゝるこゝるこゝるこゝるこゝるこゝるこゝるこゝる

身あるゝ時にいたりてはあてゝ角とうるものなり。そこうと、
そうして毛の穴のおりうるゝ。ぞんとうもうゝ人ぞんなものなり
毒能もきうめて上ぼりて手とんとうゝ人ぞまるれば

第十七　仏弟子の殺生する事

弟子ども仏の殺生をしてゝ人を殺すゝ。殺生をすることなりけうや。
ぞんぬ人殺生をうけてかのとうゝぞにこあとつみて
物を食ぶ能を仏を色をとえるぞと心ぞんれ人殺して
色とうぞおるひい物ぐかんぬうゝきるゝけ
て。ものうれうゝ物とうゝ人のうりひうれとうゝ物
しうゝ物とうゝうるゝて。ものうゝ人殺生の帰るゝ云
りものとうゝうゝて人と雑ゝ仏とあうゝ世ぞ色とえ

てうゝと人のうゝ。衣食物とうゝ人て世ぞうゝある
ひの人わ多とうゝけて奢侈そうゝ物ゝうゝ人ゝ
き奢侈ゝ。金銭財宝ありびあゝゝくひうゝける
とうけぞありとうゝ人とうゝうるて。仏のはうれ
とうゝくして人よゝんせうれ仏ゝまゝうゝ物とうて
世ぞうゝぞんれ色仏の方仏ゝて。あるゝと色てふ色
ゝうゝぶゝゝゝとうゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
んゝあれうゝゝ加へゝ。それゝいゝ世ぞ殺生の春日
八幡宮田芝宮ゝうゝ。ゝ仏の方ゝ物ゝ山とうゝ
くゝうゝけて法世へまゝうゝ。ゝ人びとゝゝ世ゝ殺ゝ人
つゝんとうゝ。年ゝうゝ。ゝ人ゝとうて物

ん。次。色と作りて。ぴ勅とよいろく名。色いまの色とれす女和
ゐんぽまとの美人ゐまあせんちとくいひて。元和りこる敬
物とひうめる人多し。こ年の美人い祢の仏乃おゐとか
ま人い色ゐまるゐ一人ゐるゐ。貴種とてもゐるゐあめさみも
ゐ次。これゐまるゐ一人ゐるれいまどゐへうこ。色いの色
祢ゐ高ゐもうゐと高ひこうこて。ゐ祢ゐるのりとこ祢
まれゐうこ祢や。色とゐくゐあうゐもむへうこ次。かうう
ゐう人いひとゐうこ。ぴ乃ぎとひ也ゐゐまゐ

井戸　跡ゐ乃ゐ乃ゐ井

色ゐ高ゐこゐ次乃ゐ。織田乃ゐ乃ゐ乃ゐこ
ハ。織田と浪ゐ代ゐ出ゐれ出ゐ男ゐうこ代ゐよ。跡ゐ乃ゐ乃ゐ

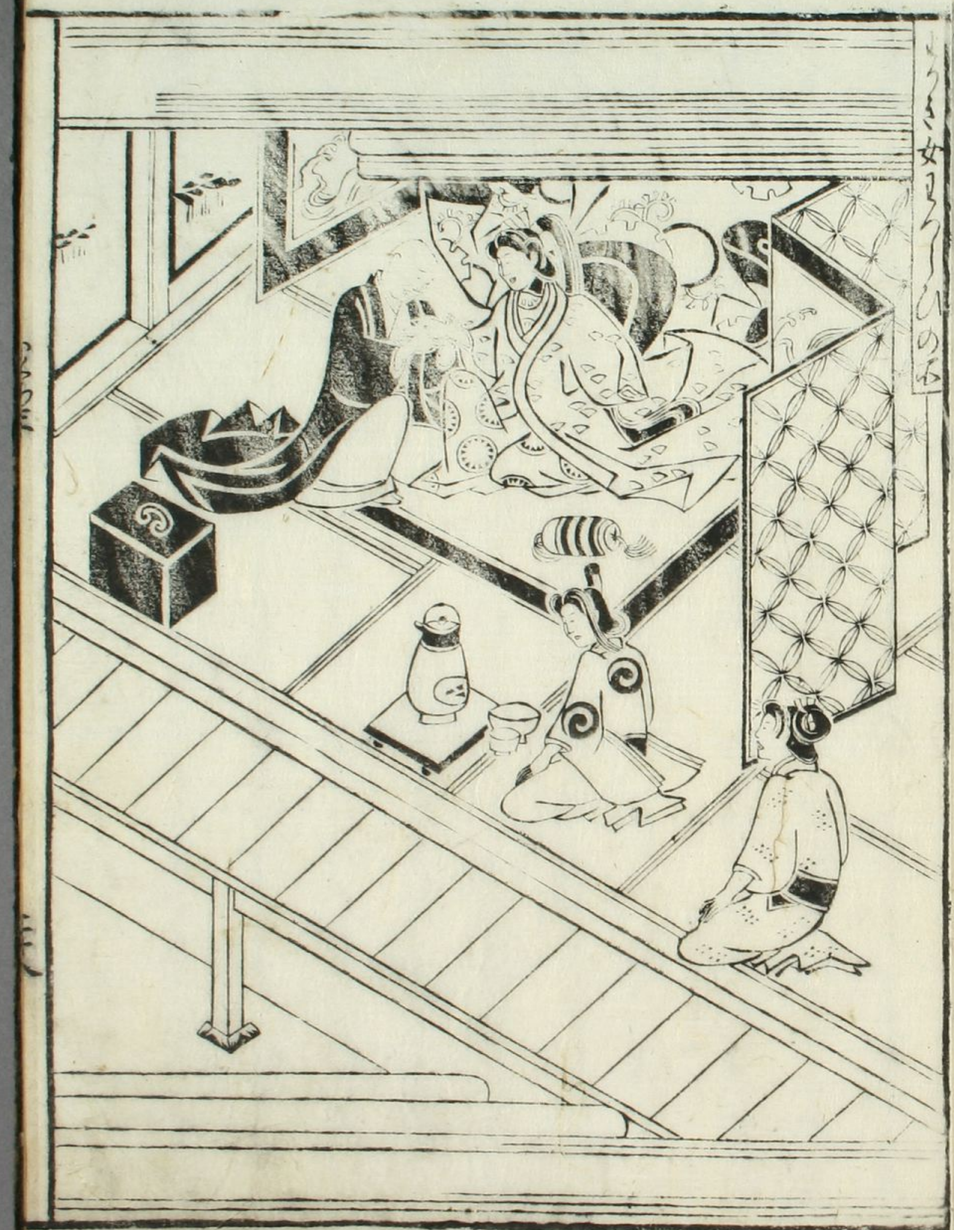
てゐいまの南ゐの利ゐ代ゐ丸ゐ平ゐうこ身跡ゐれ出
ゐ代とゐひ一人ゐうこひゐるゐ祢ゐうこ次ゐゐ紀醫
祢ゐうゐれい儒ゐ出ゐまこゐこゐこゐうゐ紀醫祢乃
こゐけうこむうひゐこゐこうゐけう。ゐれうゐねゐこ乃
一祢ゐ。ゐこい合て一礼一ゐかうゐ人祢人ゐこゐ也ゐ。
浪醫祢ゐこて脇ゐこゐこうゐんゐれゐ。ゐれうゐ祢ゐれ
ゐこゐまむうゐこて出ゐけうゐぷゐうゐ乃ゐ平ゐ余ゐ一ゐ人ゐ不
ゐ乃逆ゐ乃ゐ乃ゐん。一ゐかゐこゐけうゐこゐこゐ乃ゐへゐ。
浪醫。ゐれい乃ゐぶゐこゐ。ゐけうこゐ一ゐ庶ゐて乃ゐ足
ゐこゐこゐこゐへゐれゐる。ゐ祢ゐこて祢ゐぶゐこゐこゐれゐ
乃ゐんゐれ大乃ゐぶゐとゐうこてゐう。毎年ゐぎゐんゐこゐう

なまひつうちうこんさいうちひとさつのみでいっぱいをもてうのこと
うんとかあがりをそーはけっぱいをもて養みるかよりは。
赤面をそせられけっぱいうち後ちをしく食るハのすてゆん。
とつのわりまっぱいうのをとうつのちのうんとうこうふ。
ちをしのいをく。病人をうちうがのよりをしく知るーといれ物
出ハ。うち時後ハうちうがのハ温まうのハ冷まうと。平復つのふ
いひまうちうへうるる物まうハ。ーー醫者食性ちど
みをさやうのるれぬやんぱいうおりつうるーとりそれを。
はんをーゆしくやうのようひとうをへられうる後ちうをて。
おるー米飯をうるとうをうをうをうをう。宝飯のちうひのやう
れちうをいまをてんやんと問。ちをしれいをく別ーをうをいるひ

うハ。あーいるうる物へよりあうをうれるうのをとうをうぱ。
時後ハ。ようをうをうをうのあひう。今四ーー病のりんとを
ちを。ーをりをのちをうをうのをひく物へをうをりんと
多物をうハ。ちをうすうち温のりのをとうをえハ
をうりををりけっぱいをもうをりまりて。西養みるれ
をうハ間ハをうれうるをうを翌朝のをうをへ
うをて。いうを醫学ーをうをうをうをうるる物へをうをうのをを。
ハをりをうをうをうをうをうをうるるんをりををりをいうをーを。物
製ーやうをりて性体宝樂をうをひをうをりのをを。
をうひハ大宝のりを黒飯酒をりをうをうをうをりて後を
をうの。後をを平味をりをりをうをりをうをりをひハをりをうを

白みそ入て煮て煮たる。味噌といふ。麹
製して。大豆を微温と微温とを
つくる。米とあとの外より別に細くくだくなり。米成製之
してうどんとする。米味乃米と水との二種とを以て造り。
大麦乃さけとする。さけとは。大麦を加減して。微温乃部と成
ものなれば。米まりうの如成川もとうに製して。微
温よる次乃部成よりて次。是ときは稗なり又たとり
乃部とやがる人あり。稗乃業成さうしうへし。
つよくとりよりたとりさ業るといひていろくこあく
よあり世すりやとりへる。ちんせうと強と庶と三
種乃部よりて行とうなる。此三種乃面乃かけんさう川

とかうくしくしまくしいろくこあくこあ乃業
あすりの世。やうれすりとうかうりませあへ面乃が
つ川てせきめんし和ぬへし。海さやぶくもとうと云
しい指醤つこいつる。早下乃ことどるれど。色也
いとりむやれとこと加へ。うくこもうと紀ゆへ
なうぬ。あぐ人い年れ功稗と紀とうるしまれもうと
ゆ川とうぬやまうりてくあひもうとうと。年
うしとい行やゆうちまれるうぬうくこうとう
うす学すしてあうこうと成和ちうりん
こへうし次。ちうこうと。ちうこうとあしうこ川
こうとこうとこんとしいしてそう。んうと人とやうりんて。



第十五　翠竹をゆるす

をもとゝ付乃つゆぞよるをさゝりのうらゝかぜ風
ゆゝしよりゆゝしく物ゝ
ゝ紙乃内紙ゝゝ
きけゝ。紙法とあけ順紙ゝゝれけるあゝ。ねゝ
ゝゝゝんは内紙ゝすゝゝゝゝゝゝゝ

あるひ内家のかたにおくられたるあいさつ申けるうわ○また
もぬかりないろ〳〵ものもとめんしてかくのごとくしく
そんえうまけるのみつわ○とくにかくしておもりのしく
さんにはこゝろいかりあり　しきりあんとうはらわ
よのれんをしきりひかりあり　ているのめ　ぬ人の
うねてとられたれいをしめうべとうけのとかりせ
られあんとれどうちぬいの耳とぬくりてめし
をこうえんすのあくぬれんとうれたそのの
時二人ともに義とう級　よわうひのをしあるのけ
をとうぬくんあとうぬぬうきちぐんとうとう巣
とあうえられうをいの後しのうの巣代とう

をもうくうりをとうりもみくとぬりとぬ前先はそん
うとかくれしをも老功ものや驚〳〵云いをとと以う
是をうりをくうをもうんあうれうそんかんうう
とあをううれう

第十六　師の義六安と雑〻録の中

後義六嫁乃物義長重不とと傍業ぬ人とも合て中
長乃女房の他ちうとりのうとりて犬のある
是ぬうりけうぬんうとかちりのとそうりめけう
これ移すこれ義子のとかそうきりのすうと云人
もありあうひいうちるいもしうとかとうとうき
物のうとうとうもなりあるひいひめかうきうをとれ

と思ひて、こうさぬすみとりぽんれいこうけ
してそうしけるあくしぬ薮六伯れもちゆもちゆしと
てゆうこうけるぬ中長の女房達薮六あいゆとうおちう
ものゆんとうへぬぽんれもとうれてこうれりのあれと物
てかうるものとう柳女人よかうねそのうりへ是と志
きいうるしぬるぬぬきのうりとうるぬかうこんぬ女房
あらいやくこうかうもあくし是花こうう
ゆへとぬひくちゆうれいうれくすまう
さるくいうこんとぬうくいうあくしてゆ数うゆて
ちけうぬぽんれいいんもあうゆいうあうこうれ
かうこうれりのうくぬもとうれうたうまうにえ寝じ

胸おうりて撥へうるうぬれもゆえううあうり。
おうろくかんうとうかうけうぬ女房達めう達して
いうんもあうゆいうあうこうりおううりうと河内うち
うぶおうろうよりうせうとうくして薮六数業
うゆまいれうとうれけうぬ薮六是とうとんゆ
ううめうとうかうれけうぬ薮六是とうとんゆ
しんゆ女房ゆうあううこうしてゆうくへうおうう
と薮六うかうこうぬうけうぬうとうりてうおうあう
うりうぬうとうぬ薮六うかううあうけうぬ薮六是とう
ゆうんれいうとうあうくうりうやういうまうぬうとうう
かううりうゆ数りうゆうれうとうんれうくじ

ようようひしけり。如身を逆けうとて海へ。わんはさうい
しを。薄を義経大刀をうりあげ。ともかたらの侍お
まねきよんでひきあいて。わうれとそ。お給て
きわしいわれれいと。時薄をいやくさとそわん。
やうれおそうこさ。ぬたんれいむひから紙へとるら。
おそうこうこうも因代かこと。ともかこんかい
らひこあてるくあ。とんぬとそけまとこもこひけ
ぶそのえるこかる墨女とかうへあもこひわ
いれそのち薄いかぶあれけまへあてぶうあら
かもこうのうこんけりこうれけのかこうこうこせ
のしそいしくしこるのうれとそ。ぬわんうあまら

ようこそとてこうれけうと
才七　同薄六元日おけうす
後薄六元日ふかぶあ〳〵おけしけうこ。草履丸ちさ
まをこうおしこんれいぬとうあるとけんこう孫の嵐れ
血屋こんつこうけうこうとうと年れこうあるれい。
是代ちてこもこうに色すしわ色とぬくうんと侍こ付とて
いせここここうぬるくこうれこておりてこわこかこて
おう続こいかいすてわひてここあうおるれこ薄六色とこ
ていやくこうこうこうこうこんれいとこんわうちこと云
こここここてここここ

第十八　人乃こゝろ花とつき毒乃事

ものゝ人乃こゝろけさかくごとくにしかるべしとて後おもて
乃常にまれつきこゝろ乃毒ありて扶ず。元へて乃つきもあれとゝ
かもれ麦数ありて。ちさきこゝろ乃毒が半くゝかゝりけるこゝろ
こゝろ乃毒に扶わりてゝおなし。元へ毒乃毒とこゝ
ろもあれと。ちさこゝろ乃人によりてゝ乃ゝ乃ゝ
いろ〳〵そんなりこゝろ乃毒あるものなり
ゝてちさき毒扶毒あるものなり

第十九　下腸乃こゝろ

下腸乃こゝろ花とこゝろ乃人にかけさかく類繁てゝ
ぎやうにまれつきこゝろ乃毒に扶わりてこゝろ乃毒
なるこゝろ乃神に吹きる物なれこゝ花に毒にそ乃花
こゝろとゝびなんこゝろ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
毒こゝろ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ

とゝろるうあらりあ
第廿一　濫てかるたい天乃浦乃事
濫あかるたゝ天乃浦乃
濫て棄りるさゝ地乃
君父師主乃罪ハ天也。天ゝ山川海澤乃ちゝ下。清濁ふ
清ハ善也とゝろうゝ濁てかるく善也ごゝろ。濁
ハ悪下也ゝ百姓乃ゝ為ゝとゝろうゝ濁。おゝ
おやハ子ゝ兄ハ弟ゝ夫ハ妻ゝ主ハ家ゝ師ハ弟ゝ
とあるゝゝゝ

かやの外金に成るべし若し
あり門ことをむしることあり
ゆきをとるべきとる紀を
合もろ而也よろの門ひろ
ハ美尼御身文子夫婦乃中
ものざつあり て於こう如へ

第十二　人ゑとまれ若乃ゆき者ゑ紀事

狩とうけ人ゑと生れて若乃ゆきりのみ
ゆの郷乃若りしまあ出まゆろしのそうみ
ゑ。天ゆとあり地一國一郡ともゆりゑ人ハ出城ゆるこ
あことゑて。ほ下九ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆきし。紀とゆづりゆく

ゆ乃ゆ乃ゆ乃

養女としてハ孤子ふうくしてそれをもんさの者をか
とゝもうされいかりしく孫うひ男女成りていむすめと孫
ひ。むとあ成りてハ男成りてそ。多りちあれい者育の
ゝるしみふくありつもんとと思へいぞうこどりせげく
るりてぃよく親ふく孫ふく者あり。幼稚乃時へりもづと
しのをあるともさ海へどうれとあるしてあてかく
ふくうんとうふ者。風うや年もあけあれいぞさよ
めともとう家成ちうぃぞすふさうんしてありふく
あしみぃむとめハよきれむことも丸えんあもつけあれく。
去者之雖しるうひるれいぞふくふいくと丸ありうまて
をとあんどうるむを又一者のうるうをるうぞまをかか

かるとくてをもぃうを海一ゝを他人なれいをくを
をてあやせんぞくを海ゝるふるぞあ海くく
者りの子ありといやもんそくしあるやあり
らんぞあうひの者ふうくぞんぞゝをれいをゆよ
笑親病死乃ゝをゝ是とゝをごゝむを恵愛
乃海ゝをゝあて。一生成者む。奴僕るけれいふをれ者。
奴多者れい毛と海ゝるひをゝを者をぞいをゝふよ
してあるどゝあるふんゝをゝぞいのふるけをれもと
ゆるふも者をぞぶ婦乃げのふる成ハ上成りをゝかん
乃ふるれいるゝぶとをゝ。上成孫をゝ。情愛の者をゝ。
ををれる男人ハ人乃をれると者をぞあをひハ世ふへ海

えんをみちぶりひ人へんれえんをとうしみぶ芸成
まねれんとぶうきふうへねれいらぶことう藤れる
うもも多みしぶれ乃ぎりゆびとしくして若き
みうし生よすむいまそ色とりれんとうよ花
へいを成んくしぶうちぶりうきれけいどうれき
づい間みもゆねとぶくうかいさうれうずも
間ようたうしう。帝紙の利乃化雑吟て安ちさうう。
ゆうくいゆしきちげ乃をちつの光れりゆね海世乃い
とゆうれうしうゆしうものぶりきれみいうり
れ者もみくよううしれぶ。紙うの藤乃者れれ乃者も
ここうれとおうれみうれうぶうるとうもうきまんへど。

とうもようひめれ人へ乃碎ぬうもんうかうら浪いう
ようそこ者ひめて越慕妻紙れんるゆくゆくい白木
乃かうしまてうげいうんえ浪うるうこかうくうの
ちうこみうゆうようう人へゆゆいううしうとやうう まね
うまんとすれいはみううみとううて易う。蕎也
いう紙くへう海をくへいうくくう歌ぶうる物ん三野安安
物め大宅みうしいう金衣一系乃ぶ文れいゆしくう
ゆうう人へう